

# 向学館通信

2007・1・27

## 学年末テストにむけての準備を！

今から期末テストの対策を始めれば成績アップはまちがいないと思います。

小6の人は、はやく6年生の勉強をやり終えて、中学の準備に入りましょう。

☆新学年に向けて、力を蓄えましょう！

## 合格、おめでとう！

同志社女子中学	合格	N・Hさん (下鴨小)
立命館宇治中学	合格	R・Tくん (柘野小)
教育大附属京都中学	合格	H・Tさん (内部進学)
教育大附属京都高校	合格	J・Tくん (内部進学)
教育大附属京都高校	合格	C・Tさん (内部進学)

## 「教育改革」が本物になるでしょうか？

いま、教育問題が毎日のようにメディアの話題になっています。政府が「教育改革」を行い、いじめ問題や学力問題を解決するために新しい方針を出そうとしていることについての論評や解説、批判などが展開されているからです。

いま言われている「改革」で、子供たちに生きるための実力がつき、自分の頭でしっかりとものを考える能力がつくのか、世界に進出して誇れるような優れた頭脳が生まれるのか、他人と協力して何かをなし遂げていく忍耐力や協調性が身につくのか。人に対する思いやりが強くなってくれるのか。

子供たちが生き生きとして、楽しく勉強して、自分の頭をつかってものごとを解いていく力を養うのがいい教育だと思うのですが、こうした方向に進んでほしいものです。

## 「理科」「社会」の学習について

向学館では理科や社会は教えないのですかという質問がありました。こうした誤解がないように、お答えしておきます。

個別指導のやり方では、どの科目の学習も、ひとつの単元がわかってから先に進むのが原則です。そうすると、どうしても時間がかかり、学校の進度に合わせるのがやっとという人が出てきます。週2、3回の授業で、英語、数学だけしかできない生徒が多いというのが実態です。これは、別の見方をすると、学校の授業がほとんど分かっていない、未消化の状態だということでもあります。

理解の速い生徒は、週3回（新しいコマ数では6コマぐらい）で、理科、社会もやっているケースがあります。しかし、こうした人は少数です。

一斉授業の塾では、生徒が分かるうが分かるまいが、カリキュラムに沿ってどんどん進んでいきますから、時間がそれほどかかりません。だから、理科や社会も授業に組み込めます。ここが、個別指導と違うところです。個別指導では、理科や社会も教えるとなると、分かるまでやりますので、時間がかかりすぎます。結果として、多くの生徒にとっては、理科、社会は普段の授業では「やっている時間がない」という状態になっていきます。

この状態を埋め合わせするのが、冬、春、夏の講習です。春休み、夏休みなどに、理科、社会の苦手な単元をしっかりと理解してもらうのが、理に合った方法です。

## 理科や社会は受験にとっては極めて重要科目

高校受験では主要5教科で受験するのが普通ですが、どの科目も点数（ウエイト）は同じです（たまに例外もありますが）。そして、多くの生徒が受験時期の半年ぐらいまえから理科や社会の「暗記」に取りかかり、苦勞します。なかなか覚えられないのです。理解すべきところを理解せずに「覚えればいい」と考えていると、覚えられません。これらの科目は軽視せず、普段から理解すべきところは理解する努力をしていく必要があります。